

日本大学 松戸歯学部 ニュース

第193号

令和8年9月30日発行

日本大学松戸歯学部

TEL: 047-368-6111

千葉県松戸市栄町西2-870-1

<https://www.mascad.nihon-u.ac.jp/>



第58回全日本歯科学生総合体育大会壮行会



- クラスオフィサー ● 在校生紹介…2
- 学生会 ● 日本大学ワールド・カフェ ● 国家試験日程…3
- 5年次学外研修 ● リーダースキャンプ…4
- オープンキャンパス…5 ● 夏休み体験学習会…5 ● 入学者選抜情報…6,7
- 全日本歯科学生総合体育大会壮行会…8 ● 全日本歯科学生総合体育大会…8
- 日本大学口腔科学会学術大会 ● 実験動物慰霊祭…9 ● クラブ一覧…10
- 創設50周年記念事業募金寄付者一覧 ● 特別講義・大学院セミナー…11
- 大学院3年次研究経過報告会…12 ● 後援会総会…13
- 同窓会支部便り…14 ● 活躍する同窓…15
- 特待生・各種奨学生 ● 日本大学学生FD CHAmiT…16
- 人事 ● 着任挨拶 ● 編集後記…17 ● 講座紹介…18

クラスオフィサー

◎ チーフオフィサー
○ サブチーフオフィサー

2年次

◎ 山下 大 爾
○ 石田 寛 翔
○ 磯山 楓
○ 武末 涼 子

3年次

◎ 本内 朝 陽
○ 川野 璃 子
○ 仁田 脇 一 胤
○ 古川 結 彩

4年次

◎ 藤澤 和
○ 笠原 里倫碧
○ 清水 飛 呂
○ 村田 瑞 葵

5年次

◎ 袴田 杜
○ 高森 麗 加
荒木 姫菜子
岩城 諒 大
太田 超 雲
耕崎 彩
近藤 啓 太
茂野 薫
鈴木 源 斗
須山 裕 貴
田中 謙 丞
半間 俊 之
堀部 光 德
吉田 天 龍

6年次

◎ 安井 康 揮
○ 佐藤 歌 菜
阿久津 琉 也
飯塚 千 幸
加藤 里 奈
北見 颯 基
酒井 貴 子
清水 瑛 大
豊田 隆 一
林 直 人
樋之口 真 子
三浦 智 成
山崎 博 人
和田 光 希

在校生紹介

4年次 笠原 里倫碧さん



松戸歯学部に入學してから、自ら主体的に行動することの大切さを強く意識するようになりました。2年次からは専門科目が一気に増え、日々の実習や試験に追われる大変な毎日でした。特に自分に合った勉強法を模索する期間は、手探りの状態で大変苦労しましたが、先生方のご指導や友人と教え合い励まし合う中で、効率的な学習スタイルを確立することができました。

また、学業の傍らで会合の幹事などを務めた経験も、大きな成長につながりました。周囲の様子に目を配り、円滑に物事を進める難しさを学ぶと同時に、

自ら進んで行動することで広がる可能性や達成感を実感しました。大学生活を送っていく中で、自分の選択に責任を持ち、能動的に動く姿勢が身についたと感じています。

今年は4年次となり、遂に CBT やその先に控える病院実習という大きな節目を迎えます。これまで支えてくださった方々への感謝を胸に、恵まれた環境の中でさらなる知識と技術の習得に励み、将来患者様に寄り添える歯科医師を目指して精進していきたいと思っています。

学生会

学生会執行委員長 3 年次 鶴丸 昂大

令和8年度学生会執行委員長を拝命いたしました、学部3年次の鶴丸 昂大と申します。

学生会執行委員会では、学生生活のサポートや各部活の統括、そして本学部の文化祭である「松戸祭」の企画・運営を行っております。学生生活への支援や部活運営につきましては、今年度のリーダースキャンプを通じ、学内環境の改善案提出や、各部活の方針決定・予算設定を既に完了いたしました。また、日常の生活相談も受け付けておりますので、お気軽に学生会役員へお声掛けください。

さて、今年度の松戸祭は、新校舎である50周年記念棟の運用開始以来初となる屋外での開催を予定しており、新たに完成した記念棟の前方に広がるアプローチを有効活用する予定です。これに伴い、挑戦的なスローガンとして「ぶっちぎれ。」を掲げました。前例のない新しい松戸祭を皆さまにお楽しみいただければ幸いです。

引き続き、温かいご支援のほどよろしくお願いいたします。



松戸祭オフィシャルサイト



全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」 日本大学ワールド・カフェ（N-MIX）を開催しました

令和8年6月7日（日）、令和8年度日本大学ワールド・カフェ（N-MIX）を対面方式にて開催しました。

「日本大学ワールド・カフェ（N-MIX）」は、日本大学の16学部・短期大学部の垣根を越え、1万6千人余りの学生が各学部のキャンパスで交流し、共通のテーマについて語り合う授業です。学生は指定されたキャンパス会場に集合し、様々な学部の学生で構成された少人数グループに分かれ、「私

たちが豊かに暮らしていくために」というテーマのもと、模造紙にグループの考えや意見を書き入れ、様々なグループと意見を共有しました。

他学部の学生と意見を共有することで、多様な価値観に触れ、物事を多角的な視点で考える大切さを学ぶ機会になったかと思います。本学の理念でもある「自主創造」を体現する本授業が、学生の今後の学業や学生生活に活かされることを願っております。

第120回 歯科医師国家試験日程

試験日	令和9年1月30日（土）、1月31日（日）
合格発表	令和9年3月16日（火）午後2時

5 年次学外研修を実施しました

5 年次生全員を対象とした学外研修を、令和 8 年 4 月 17 日（金）に株式会社モリタ東京製作所にて実施しました。

5 年次 袴田 杜

学外研修として、埼玉県伊奈町の株式会社モリタ東京製作所に伺いました。工場内では、最新鋭の機器を用いた製造工程に驚かされました。

特に歯科用ユニットの生産現場では、多くの部品が一つ一つ、人の手で組み上げられており、長年培われた職人技による迷いのない動きや、材料選びから焼き入れ工程に至るまで、徹底された品質管理に深く感銘を受けました。

今回、医療機器の製造現場や技術の詳細を直接拝見し、人々の健康を支えているのは医療従事者だけ

でなく、工場の方々や技術者の皆様の尽力があってこそだと深く理解することができました。

この貴重な経験を今後の勉学や将来の臨床現場での新たなモチベーションとし、歯科医療の発展に貢献できるよう努力してまいります。

最後になりますが、引率いただいた教職員の皆様、そして大変貴重なお時間を賜りました株式会社モリタ東京製作所の皆様にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。



リーダースキャンプを実施しました

令和 8 年 6 月 6 日（土）、今年度の「リーダースキャンプ」が行われました。

今年度も学生生活委員の先生方をはじめ、学生会執行委員会、体育・文化クラブ連合会、各クラブの代表者が集結し、集会に臨みました。

当日は下坂先生による活動上の注意事項に関する講習に始まり、続く公認クラブ大学補助金予算会議では、今

学生会執行委員長 3 年次 鶴丸 昂大

年度の活動内容を踏まえた活発な議論が交わされました。その後、学生生活の改善に向けて学生会執行委員会が取りまとめた要望書の提出と協議が行われ、大学全体の課題として取り組んでいく方針が固まりました。

暑い日が続く中ではありますが、各クラブは全日本歯科学学生総合体育大会に向けて日々練習に励んでいます。ぜひ彼らの活躍にご期待ください。



オープンキャンパスを開催しました

本学部のオープンキャンパスを令和8年5月31日（日）、7月25日（土）、8月8日（土）に開催し、学部概要説明や個別進学相談、う蝕治療体験、施設見学、在校生相談など様々なプログラムを実施いたしました。

計3回の開催で、200名を超える多くの方にご参加いただき、参加者からは「入試のことを個別に相談できて良かった。」「病院見学をすることができて、歯科医師になりたい気持ちが強まりました。」といった声も寄せられました。

なお、第4回オープンキャンパスは、10月11日（日）に予定しており、同日に開催される松戸祭とあわせて、より一層にぎやかな一日になる予定です。是非ご参加ください。



夏休み体験学習会を開催しました

令和8年8月20日（木）に夏休み体験学習会を開催しました。

同行事は「歯科医師ってどんな仕事なんだろう?」、「松戸歯学部ではどんな環境で学べるの?」そんな疑問や興味を持っている方を対象とした、来場者体験型のイベントとなっております。

今回も毎回参加者から人気のう蝕治療体験や指印象採得体験、口腔内の細菌観察、矯正治療シミュレーション、

救急蘇生法体験など手を動かしながら学ぶことができる様々なプログラムを実施し、100名を超える方々にご参加いただきました。

次回の体験学習会は令和9年3月27日（土）に開催予定となっております。

お申込み方法等の詳細につきましては、本学部ホームページに掲載予定ですので、ご確認くださいませようお願いいたします。



令和9年度 入学者選抜情報

学 部

☆総合型選抜【専願】

募集人員 16名【(第1期・第2期・第4期) 合計】

★第1期

出願期間 令和8年 9月 1日(火)～10月9日(金)

選考日 令和8年10月17日(土)

合格発表 令和8年11月 2日(月)

★第2期

出願期間 令和8年11月13日(金)～12月4日(金)

選考日 令和8年12月12日(土)

合格発表 令和8年12月18日(金)

★第4期

出願期間 令和9年2月15日(月)～3月5日(金)

選考日 令和9年3月11日(木)

合格発表 令和9年3月18日(木)

☆総合型選抜【併願】

募集人員 10名

★第3期

出願期間 令和8年12月 7日(月)～令和9年1月13日(水)

選考日 令和9年 1月23日(土)

合格発表 令和9年 1月29日(金)

☆校友枠選抜【専願】

募集人員 10名【(第1期)・(第2期) 合計】

★第1期

出願資格確認書申請期限 令和8年9月25日(金)

出願期間 令和8年 9月 1日(火)～10月9日(金)

選考日 令和8年10月17日(土)

合格発表 令和8年11月 2日(月)

★第2期

出願資格確認書申請期限 令和8年11月20日(金)

出願期間 令和8年11月16日(月)～12月4日(金)

選考日 令和8年12月12日(土)

合格発表 令和8年12月18日(金)

☆学校推薦型選抜指定校制・公募制【専願】

募集人員 12名【(指定校)・(公募制) 合計】

出願期間 令和8年11月 2日(月)～11月9日(月)

選考日 令和8年11月14日(土)

合格発表 令和8年12月 1日(火)

☆学校推薦型選抜(付属高等学校等)基礎学力選抜【専願】

募集人員 16名

出願期間 令和8年11月 2日(月) 付属校から大学本部へ

選考日 令和8年11月14日(土)

合格発表 令和8年12月 1日(火)

☆学校推薦型選抜(付属高等学校等)付属特別選抜【専願】

募集人員 2名

出願期間 令和8年11月 2日(月) 付属校から大学本部へ

選考日 令和8年11月14日(土)

合格発表 令和8年12月 1日(火)

☆学校推薦型選抜(付属高等学校等)国公立併願方式【併願】

募集人員 1名

出願期間 令和8年11月 2日(月) 付属校から大学本部へ

選考日 令和8年11月14日(土)

合格発表 令和8年12月 1日(火)

☆学校推薦型選抜(付属高等学校等)追加募集【専願】

募集人員 基礎学力選抜の募集人員を充足しなかった人数分を上限とする。

出願期間 令和8年12月 8日(火) 付属校から大学本部へ

選考日 令和8年12月12日(土)

合格発表 令和8年12月18日(金)

☆転部試験(2年次)

募集人員 若干名

出願期間 令和8年11月 2日(月)～11月9日(月)

選考日 令和8年11月14日(土)

合格発表 令和8年12月 1日(火)

☆編入学試験(2年次・3年次)【併願】

募集人員 若干名【(第1期)・(第2期) 合計】

★第1期

出願期間 令和8年11月 2日(月)～11月9日(月)

選考日 令和8年11月14日(土)

合格発表 令和8年12月 1日(火)

★第2期

出願期間 令和9年2月15日(月)～3月5日(金)

試験日 令和9年3月13日(土)

合格発表 令和9年3月19日(金)

☆外国人留学生選抜【併願】

募集人員 4名【(第1期)・(第2期) 合計】

★第1期

出願期間 令和8年 9月 1日(火)～9月24日(木)

※出願受付は終了いたしました。

選考日 令和8年10月17日(土)

合格発表 令和8年10月23日(金)

★第2期

出願期間 令和8年11月 2日(月)～11月20日(金)

選考日 令和8年12月12日(土)

合格発表 令和8年12月18日(金)

学 部

☆一般選抜 N全学統一方式【併願】

募集人員 10名【(第1期)・(第2期) 合計】

★第1期

出願期間 令和9年1月 5日(火)～1月22日(金)

試験日 令和9年2月 1日(月)

合格発表 令和9年2月12日(金)

★第2期

出願期間 令和9年1月 5日(火)～2月25日(木)

試験日 令和9年3月 4日(木)

合格発表 令和9年3月12日(金)

☆一般選抜 A個別方式【併願】

募集人員 42名【(第1期)・(第2期) 合計】

★第1期

出願期間 令和9年1月 5日(火)～1月26日(火)

試験日 令和9年2月 4日(木)

合格発表 令和9年2月12日(金)

★第2期

出願期間 令和9年1月 5日(火)～2月19日(金)

試験日 令和9年2月27日(土)

合格発表 令和9年3月 5日(金)

☆一般選抜 C共通テスト利用方式【併願】

募集人員 5名【(第1期)・(第2期) 合計】

★第1期

出願期間 令和9年1月 5日(火)～1月27日(水)

試験日 令和9年1月16日(土)・1月17日(日)

令和9年1月23日(土)・1月24日(日) 追試験

合格発表 令和9年2月12日(金)

★第2期

出願期間 令和9年1月 5日(火)～3月10日(水)

試験日 令和9年1月16日(土)・1月17日(日)

令和9年1月23日(土)・1月24日(日) 追試験

合格発表 令和9年3月18日(木)

※詳細はこちらをご覧ください。



松戸歯学研究科

☆大学院入学試験

★第1期

募集人員 10名(定員の範囲内で社会人含む)

出願期間 令和8年8月24日(月)～9月4日(金)

※出願受付は終了いたしました。

試験日 令和8年9月12日(土)

合格発表 令和8年9月28日(月)

★第2期

募集人員 20名(定員の範囲内で社会人含む)

出願期間 令和9年1月18日(月)～1月29日(金)

試験日 令和9年2月13日(土)

合格発表 令和9年3月 3日(水)

☆外国人留学生大学院入学試験

募集人員 若干名

入学資格申請書等提出締切日 令和8年9月30日(水)

※日本大学本部学務部入学課から「入学資格審査申請書」を取り寄せて申請。

出願期間 令和8年 7月17日(金)～10月16日(金)

試験日 令和8年11月 7日(土)

合格発表 令和8年11月17日(火)

※詳細はこちらをご覧ください。



第 58 回全日本歯科学生総合体育大会壮行会について

体育連合会長 4 年次 清水 飛呂

この度、全日本歯科学生総合体育大会の壮行会が開催され、体育連合会長として参加いたしました。壮行会では、福本学部長、野本学生担当、亀田後援会長、古谷同窓会長より、学生一人ひとりに温かく力強い激励のお言葉を頂戴いたしました。

今年は多くの現役部員が一堂に会し、各部の仲間同士で交流を深めながら、大会への士気を高めることのできる活気あふれる壮行会となりました。

先生方やご来賓の皆様から温かい激励のお言葉を頂き、現役部員一同、大会へ向けた決意を新たにするとともに、

日頃の練習の成果を十分に発揮できるよう、士気を一層高める機会となりました。

現役部員たちは、日々の練習で培ってきた技術と体力を存分に発揮できるよう、それぞれが大会に向けて準備を進めています。これまで支えてくださった OB・OG の皆様をはじめ、ご指導いただいた先生方、大会運営に携わる関係者の皆様への感謝の気持ちを胸に、全力で競技に臨んでまいります。

今後とも、体育連合会の活動について変わらぬご支援とご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



第 58 回全日本歯科学生総合体育大会について

第 58 回全日本歯科学生総合体育大会は、九州大学歯学部を事務主管として開催され、無事に終了しました。

大会の結果はこちらから
ご覧いただけます。



クラブ 代表コメント

ラグビーフットボール部

第 58 回全日本歯科学生総合体育大会において優勝することが出来ました。今大会の部門主管校として本学グラウンドで開催するにあたり、各先生方の多大なご支援と、温かい激励を頂き厚く御礼申し上げます。OB の先生方、そして多くの学生からの応援が我々の力になりました。来季はさらなる飛躍を目指し『3 連覇』へ全力を尽くして参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

(ラグビーフットボール部 前主将 原 宏輔)



第26回日本大学口腔科学会学術大会を開催しました

日本大学口腔科学会事務局長 末光 正昌



令和8年8月30日（日）、第26回日本大学口腔科学会学術大会が50周年記念講堂にて対面形式で開催されました。評議員会及び総会は書面で開催され、前年度決算報告書、次年度事業計画等のすべての議案が承認されました。本年度も無事に開催することができましたこと

につきまして、準備・運営にご尽力いただいたすべての関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本年度は、特別講演2題、一般講演24題の発表があり、活発な意見交換がなされました。特別講演Ⅰでは、平塚浩一氏（日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座教授）による「歯科医学における遺伝子研究のあゆみ」、特別演題Ⅱは、内田貴之氏（日本大学松戸歯学部歯科総合診療学講座教授）による「歯科臨床推論における二重過程理論と診断エラー」のご講演をいただきました。

日本大学口腔科学会優秀論文賞は、川島央暉氏（日本大学松戸歯学部薬理学講座助教）、秦万梨子氏（日本大学大学院松戸歯学研究科口腔病理学専攻）、鈴木到氏（日本大学松戸歯学部衛生学講座専任講師）の3名が受賞されました。3名の先生方の今後ますますのご活躍を祈念しております。

実験動物慰霊祭



実験動物慰霊祭が、令和8年4月23日（木）に動物実験センター北側の慰霊祠で行われました。福本雅彦学部長をはじめ、教職員代表、大学院生及び学部生代表が祈禱に参加し、そのほかの動物実験に従事する関係者については式典後に慰霊碑に訪れてもらい、実験・実習に供された多くの動物たちの霊に感謝しつつ冥福を祈りました。

大学院生代表 4年次 宮本 玲華

令和8年度実験動物慰霊祭に大学院生代表として参加させていただきました。これまでの研究成果は実験動物の尊い命の犠牲の上に成り立っていることを改めて実感しました。

命を捧げてくれた動物への感謝と敬意を忘れず、3Rを遵守しながら倫理観を持って研究に取り組み、歯科医学の発展に貢献できるよう努めてまいります。

学部生代表 3年次 本内 朝陽

令和8年度の実験動物慰霊祭に参加させていただきました。改めて、実験動物の尊い命に深く感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

日々の実習がその犠牲の上に成り立っていることを再認識し、命を捧げてくれた動物たちに報いるべく、今後はより一層真摯な姿勢で学習に取り組み、知識と技術の向上に努めてまいります。

クラブ一覧

体育クラブ連合会

団 体 名	部員数	学生責任者		指導教員	
		年 次	氏 名	資 格	氏 名
合 気 道 部	11	3	古 川 早 紀	専 任 講 師	鈴 木 誠
アメリカンフットボール部	35	3	五 味 篤 哉	教 授	根 岸 慎 一
空 手 道 部	11	2	秦 健 誠	教 授	深 津 晶
弓 道 部	25	3	小 林 雅 治	教 授	伊 藤 誠 康
剣 道 部	7	4	橋 本 晃 汰	教 授	谷 本 安 浩
硬 式 庭 球 部	20	3	西 迫 平 祐	准 教 授	伊 藤 龍 朗
硬 式 野 球 部	15	6	和 田 光 希	教 授	小 峯 千 明
ゴ ル フ 部	25	4	北 原 朱 羽	教 授	内 田 貴 之
サ ー フ ィ ン 部	26	5	薄 永 海 斗	専 任 講 師	遠 藤 眞 美
サ ッ カ ー 部	38	5	新 海 弘 貴	准 教 授	高 井 英 樹
山 岳 部	7	4	吉 野 圭 亮	専 任 講 師	榎 本 豊
少 林 寺 拳 法 部	8	5	千 葉 理 加	教 授	中 山 洋 平
柔 道 部	10	4	上 松 大 一	教 授	泉 福 英 信
準 硬 式 野 球 部	19	3	西 川 真ノ介	専 任 講 師	鈴 木 正 敏
水 泳 部	12	4	森 村 聡	教 授	清 水 武 彦
ス キ ー 部	12	2	鈴 木 知 裕	助 教	菅 野 慎太郎
ソ フ ト テ ニ ス 部	26	4	水 無 剛	教 授	岡 田 裕 之
日 本 拳 法 部	16	3	川 滝 毅	准 教 授	小 林 平
バスケットボール部	24	4	山 浦 生 悟	専 任 講 師	松 根 健 介
バドミントン部	48	4	篠 原 皓 一	教 授	塩 崎 一 成
バ レ ー ボ ー ル 部	33	3	大 島 歩 由	准 教 授	田 中 陽 子
フ ッ ト サ ル 部	休部				
ボ ク シ ン グ 部	21	4	富 岡 り こ	教 授	有 川 量 崇
洋 弓 部	22	4	佐々木 誠之介	准 教 授	清 水 邦 彦
ヨ ッ ト 部	5	2	國 重 俊 介	准 教 授	石 井 智 浩
ラグビーフットボール部	23	4	清 水 飛 呂	教 授	若 見 昌 信
陸 上 競 技 部	10	3	後 藤 健 一	准 教 授	宇都宮 忠 彦

文化クラブ連合会

団 体 名	部員数	学生責任者		指導教員	
		年 次	氏 名	資 格	氏 名
アナログレコード研究部	休部				
軽 音 楽 部	41	3	荻 原 怜 央	専 任 講 師	岡 部 達
国 際 保 健 部	47	3	山 本 華 夏	准 教 授	竹 内 麗 理
写 真 部	37	3	鶴 丸 昂 大	准 教 授	浅 野 隆
ダ ン ス 部	27	4	山 田 芙美香	准 教 授	續 橋 治
天 文 部	27	3	横 島 竜 季	教 授	吉 垣 純 子
ユースホステルクラブ	4	6	加 藤 里 奈	専 任 講 師	岡 本 京

同好会

団 体 名	部員数	学生責任者		指導教員	
		年 次	氏 名	資 格	氏 名
自 動 車 同 好 会	16	5	吉 田 天 龍	専 任 講 師	中 島 基 樹
戦 史 研 究 会	14	3	片 岡 礼	教 授	小 倉 昭 弘
卓 球 同 好 会	18	3	安 富 真 史	准 教 授	楠 瀬 隆 生
ダ ー ツ 同 好 会	19	3	鶴 丸 昂 大	准 教 授	五十嵐 由里子
釣 り 同 好 会	休部				
M D E C 同 好 会	6	5	二 瓶 恵 菜	准 教 授	渡 邊 徳 明
家 庭 科 同 好 会	7	1	高 橋 琴 美	准 教 授	五十嵐 由里子

日本大学松戸歯学部創設 50 周年記念事業募金寄付者一覧

(令和 8 年 4 月 17 日 (前回掲載日以降) ~ 令和 8 年 8 月 31 日分)

日本大学松戸歯学部へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ご寄付を賜りました皆様のご厚志に感謝し、ご芳名を掲載させていただきます。

※ご支援いただきました方 (掲載にご同意いただいた方) のお名前を五十音順で掲載しております。
※敬称は省略させていただいております。

有川 量崇 石川 誠一 石田 秀樹
医療法人社団三進会 みつはし歯科医院
医療法人社団古谷あいし会 理事長 古谷 容
医療法人社団和晃会 理事長 大山 和次
卯田 昭夫 宇田川美穂 宇都宮忠彦 片山 雅彦
金丸 卓史 工藤 勝康 小出 恭彦 後藤新太郎
小林 勝幸 下坂 典立 庄司 孝徳 鈴木 秀紀
寺嶋 哲生 中井 文彦
日本大学松戸歯学部同窓会世田谷支部
福井 礼子 古谷由美子 村上 洋

※これまでにご寄付いただきました方のお名前は Web 芳名録でご覧いただけます。



Web 芳名録はこちら

特別講義・大学院セミナーについて

特別講義・大学院セミナーは、教育課程を越えた幅広い教育研究に資するため開催しています。
教職員・大学院生だけでなく、これから大学院入学を考えている研修医・学部学生も参加することができます。

■直観とエビデンスのギャップを埋める：歯科保健医療のデータサイエンス 講師 相田 潤 現職 東京科学大学大学院医歯学総合研究科 歯科公衆衛生学分野教授 期日 令和 8 年 7 月 16 日 (木)	■病理組織学的所見を応用した口腔癌個別化治療 講師 横尾 聡 現職 群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面外科学講座・形成外科学講座教授 期日 令和 8 年 9 月 17 日 (木)
■発酵食品を活用した <i>Streptococcus mutans</i> の制御、および実験室進化から紐解くその環境適応メカニズム 講師 成澤 直規 現職 日本大学生物資源科学部食品開発学科教授 期日 令和 8 年 10 月 1 日 (木)	■覚醒動物を用いた咀嚼の神経制御 講師 山村 健介 現職 新潟大学大学院歯保健学研究科教授 期日 令和 8 年 10 月 22 日 (木)
■ 22q11.2 欠失症候群 (VCFS)：頭蓋顔面形態異常、神経精神疾患との関連、および形態形成異常のマウスモデル 講師 John L Waddington 現職 アイルランド王立医科大学名誉教授 期日 令和 8 年 10 月 29 日 (木)	■歯科領域における再生医学研究と再生医療を普及させるための課題について (仮題) 講師 本田 雅規 現職 愛知学院大学歯学部口腔解剖学教授 期日 令和 8 年 11 月 6 日 (金)

大学院 3 年次 研究経過報告会を開催しました



大学院 3 年次研究経過報告会は、令和 8 年 7 月 9 日（木）、10 日（金）午後 0 時 30 分から、50 周年記念講堂で開催されました。初日の福本研究科長の開会挨拶に続き、2 日間で 20 名の発表が行われ、9 日は 71 名、10 日は 58 名の合計 129 名が参加しました。また、7 月 8 日（水）～7 月 14 日（火）にかけて 50 周年記念棟 1 階エントランスホールでは研究成果をまとめたポスターの展示も行いました。

開催にあたって円滑な運営を実現できたのは、関係の教職員各位のご尽力によるものです。心から感謝申し上げます。皆様のお力添えで大学院生は研究成果の発表や討論で自信を得たものと期待しています。

開催後のアンケート調査で頂いた多数の建設的な回答も参考にして、今後も本報告会を通じて大学院教育の充実を推進できれば幸いです。

発表者と題目は以下のとおりでした。

月日	座 長	発表者	専攻学科目	題 目
7 月 9 日（木）	泉福 英信	岸本 瞳	放 射 線 学	テクスチャ解析を用いた含歯性嚢胞における感染の定量評価
		BADAMDORJ OTGONJARGAL	歯 科 麻 酔 学	口腔内におけるピンブリックテストの代替評価法としての Semmes-Weinstein Von Frey Anesthesiometer を用いた機械的疼痛閾値測定の検討
		ERDENEBUGAN KHALIUN	小 児 歯 科 学	マウスを用いたエナメル質形成不全へのフッ化物応用の齲蝕予防効果
	有川 量崇	小黒 裕之	顎機能・冠橋義歯補綴学	貼付型簡易筋電計による睡眠時ブラキシズム頻度と臨床所見との関連性の検討
		今井 悠介	有床義歯補綴学	地域歯科医院の来院患者における補綴歯科治療の難易度と治療による満足度・口腔機能の変化の検討
		鶴見 惇	口 腔 病 理 学	高齢者におけるカンジダ分離状況と口腔機能低下との関連性の検討 － 2022 年および 2025 年の比較－
		諸星 武治	生 理 学	塩味感覚に対する唾液成分と食塩摂取習慣の影響
	三枝 禎	西村 航一	衛 生 学	<i>Actinomyces oris</i> のバイオフィーム形成に対する D- タガトースおよび D- アルロースの影響
		岡部 眞利	衛 生 学	20 歳から 30 歳への 10 年間ににおける口腔環境の経年変化と自治体歯科健診の意義
		丹谷 聖一	衛 生 学	松戸市における妊婦歯科健診の解析 ～良い妊娠による母児の保護と母の将来の口腔内環境の改善のために～
7 月 10 日（金）	岡田 裕之	鮎田 憲賢	微生物学・免疫学	バイオフィーム形成阻害力を獲得した新規シリコンア作製物および阻害材の開発
		CHENG XUEFEI	微生物学・免疫学	カラギーナンおよび銀による <i>Streptococcus mutans</i> バイオフィーム形成抑制と感受性関連遺伝子の関与
		Shao Yiting	微生物学・免疫学	Mechanical Loading-Induced PD-L1 Expression in Human Periodontal Ligament Cells: Potential Involvement in Early Immune Regulation during Orthodontic Tooth Movement
	清水 武彦	安附 尚哉	歯 科 矯 正 学	3D Facial scan を用いた顔面軟組織の非対称性の評価
		松浦 孝将	歯 科 矯 正 学	<i>Streptococcus mutans</i> が放出する膜小胞（MVs）が歯科矯正力をかけた際の歯頸部セメント質および歯槽骨吸収に与える影響
		武笠 脩哉	歯 科 矯 正 学	Micro-osteoperforations の施術数がラット実験的歯牙移動における炎症反応・骨代謝および歯根吸収に及ぼす影響
		佐藤 理沙	歯 科 矯 正 学	フェイシャルパターンにより比較した下顎歯槽骨形態と口腔機能の関連について
	根岸 慎一	今村 亮哉	保 存 修 復 学	日本大学松戸歯学部付属病院における 2006 年度及び 2023 年度の初診紹介状患者の実態調査
		金本 成一	有床義歯補綴学	口腔機能と力を相対的に調整するグレーディング能力の評価方法に関する研究
		秦 万梨子	口 腔 病 理 学	口腔孔道癌の増殖形態および浸潤様式に関する病理組織学的研究

後援会総会を開催しました

令和8年度本学部後援会総会が、令和8年5月23日（土）に50周年記念講堂で開催されました。

総会は、はじめに長坂英朗会長から挨拶があり、続いて福本雅彦学部長（名誉会長）から挨拶がありました。議長選出に移り、従前にならない長坂会長が選出されました。同議長から会員総数 788 名中、委任状提出者を含めた 371 名の出席があり、総会が有効に成立したことを報告し、議事に入りました。

令和8年度 日本大学松戸歯学部後援会総会
議事 令和7年度 会務報告に関する件
令和7年度 事業報告に関する件
令和7年度 決算報告に関する件
令和7年度 会計監査報告に関する件
令和8年度 事業計画（案）に関する件
令和8年度 予算（案）に関する件
令和8年度 役員等の選出（案）に関する件
日本大学保護者評議員選出に係る松戸歯学部
保護者代表者の選出に関する件



そして、亀田典照新会長から長坂前会長の後援会顧問就任の提案があり、審議の結果、満場一致で承認されました。

引き続き、福本学部長から、令和7年度で退任される長坂前会長及び田中監事に対し感謝状と記念品が贈呈されました。

新会長就任挨拶

松戸歯学部後援会長 亀田 典照



このたび、後援会総会におきまして会長を拝命いたしました、亀田典照と申します。伝統ある後援会の会長という大役をお任せいただき、身の引き締まる思いでおります。

日頃より後援会活動に御理解と御協力を賜っております会員の皆様、そして学生の教育に御尽力いただいております教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

歯科医師を目指す学生たちは、日々の講義や実習、そして歯科医師国家試験という大きな目標に向かって努力を重ねています。その道のりは決して平坦ではなく、時には不安やプレッシャーを感じることも少なくありません。しかし、その努力の積み重ねは、将来、多くの患者さんの笑顔と健康を支える大きな

力となります。

一方で、大学生活は勉強だけではありません。友人との出会い、クラブ活動や学園祭、何気ない日常の一つひとつが、かけがえのない青春の思い出となります。学生の皆さんには、学ぶべきことには全力で取り組みながらも、今しかない大学生活を思い切り楽しみ、人としても大きく成長してほしいと願っています。

後援会は、そんな学生の皆さんが安心して学び、充実した学生生活を送ることができるよう、教育環境や福利厚生の実現などを通じて、全力で応援してまいります。学生一人ひとりが夢に向かって前向きに歩み続けられるよう、微力ではございますが、後援会長として精一杯努めてまいります。

結びに、本学部のさらなる発展と、学生の皆さんの夢の実現、そして会員並びに教職員の皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げ、会長の挨拶とさせていただきます。

同窓会支部便り

日本大学松戸歯学部同窓会千葉連合会



千葉連合会会長 石井 広志（12期）

平成16年千葉県支部は千葉第一支部（野田市・柏市・我孫子市・流山市）、千葉第二支部（市川市・浦安市・松戸市）、千葉第三支部（船橋市・鎌ヶ谷市・習志野市・八千代市）、千葉第四支部（千葉市）、千葉第五支部（茂原市・山武・安房・東金市・長生郡・市原市・君津市・木更津市・袖ヶ浦市・館山市・鴨川市・富津市・南房総市）、千葉第六支部（印旛郡・佐原市・香取郡・銚子市・海上郡・成田市・白井市）の6支部に分かれ、支部間の連絡や交流を計る為に日本大学松戸歯学部同窓会千葉連合会が初代連合会会長の阿部正也先生のもと発足しました。

その後、平成23年に現在の東葛支部（野田市・柏市・我孫子市・流山市）、松戸支部（松戸市）、市川浦安支部（市川市・浦安市）、船橋支部（船橋市・鎌ヶ谷市）、習志野八千代支部（習志野市・八千代市）、千葉支部（千葉市）、内房支部（市原市・君津市・木更津市・袖ヶ浦市・館山市・鴨川市・富津市・南房総市）、茂原山武支部（茂原市・山武・安房・東金市・長生郡）、印旛東総支部（印旛郡・佐原市・香取郡・銚子市・海上郡・成田市・白井市）9支部に再分割いたしました。

以前より千葉県では日本大学歯学部・松戸歯学部の合

同窓会という形として活動しており、「日本大学千葉県歯科同窓会」と改称、日本大学歯学部千葉県支部（千駿会）と日本大学松戸歯学部同窓会千葉県連合会の二つの組織の上に日本大学千葉県歯科同窓会として、総会、役員会、支部長会、学術講演会、社保講習会、ゴルフ大会等の親睦会などを開催、それぞれの学部単位でも総会等の活動をしています。

二代目会長の横山英雄先生、三代目の大山和次先生、四代目の出口晃先生、五代目の平井彰先生に引き続き昨年6月から私 石井が連合会会長の任を仰せつかりました。中島真理子副会長、水田勝副会長、薄永哲也専務理事をはじめ役員の皆様に支えられ会員相互の親睦や絆を深めるのとともに、学部・同窓会本部への全面的バックアップをすべく活動をしております。

また、千葉県歯科医師会において大河原伸浩会長、柴田康則専務理事は当会の会員であり、私も代議員会議長を務めており、地域歯科医療への貢献の一助を担っております。千葉県で開業の際には是非お声掛けいただき、一緒に活動していただければ幸いです。





さくらサイエンスプログラムにて。ウエスタンケープ大学の教員・学生一行、および当分野メンバーとともに（中央：筆者）

29 期生 佐藤 慶太郎

朝日大学歯学部歯科薬理学分野 教授

『松戸歯ニュース』をお手にとられた皆様、こんにちは。29 期生の佐藤慶太郎と申します。10 年前、獨協医科大学助教時代に本誌へ執筆する機会を得ましたが、この度再びご依頼を頂戴いたしました。母校の保護者、教職員、そして後輩の皆様にごうして近況をご報告できること、大変光栄に存じます。

前回の寄稿では「松戸歯学部の看板を背負う覚悟」について、生意気にも書かせていただきました。当時、獨協医科大学医学部生理学教室で研究・教育に勤しんでいた私は、その後も唾液腺をはじめとする外分泌腺におけるタンパク質や水分の分泌機構の解析など、基礎研究の深化に没頭してまいりました。そして現在、私は朝日大学歯学部歯科薬理学分野の主任教授として教育・研究を統括するとともに、学年主任や放射性同位元素研究施設長といった重責をお預かりし、次世代の歯科医師育成に深く携わっております。

近年では研究・教育の場が国際的にも広がりを見せております。令和 6 年度以来、JST「さくらサイエンスプログラム」の支援のもと、提携校である南アフリカ共和国のウエスタンケープ大学より歯学部生と教員を毎年 10 名前後、私の研究室を窓口として受け入れています。当分野での研究テーマに基づく実験や交流を通じ、歯科医学を担う若人たちが目を輝かせて科学に挑む姿に大きな刺激を受けました。

学生時代、硬式庭球部顧問の川良美佐雄先生から「松戸歯学部の看板を背負って戦え」と叱咤された言葉、そ

して大学院でご指導賜った杉谷博士先生の「歯学はサイエンスである」という教えは、国境や立場を超えた今も私の根底に深く根付いています。恩師方から受け取った情熱を、自校の学生や海外からの留学生、母校の後輩たちへいかに継承していくか、それが今の私の大きなモチベーションです。

平成 17 年 3 月に本学を卒業し、平成 21 年 3 月に大学院を修了して巣立ってから 17 年が経ちました。立場が変わった今でも、ふとした瞬間に「自分は今も松戸歯学部の看板を背負っている」と感じます。自分の研究成果や国際的な活動が、めぐり巡って母校の評価や後輩たちの視野を広げるきっかけになるかもしれない。そう思うと、日々の仕事に決して妥協はできません。

看板の重みは年々増している気もいたしますが、心地よい緊張感とともに、これからも母校の名に恥じぬよう研鑽を重ねてまいる所存です。末筆ではございますが、日本大学松戸歯学部の益々のご発展と同窓の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

特待生・各種奨学生

令和8年7月15日（水）、特待生・各種奨学生証書等授与式を挙行了しました。今年度の特待生・各種奨学生は以下のとおりです。

○ 日本大学特待生

【学部】 2年次 吉岡真悠
3年次 呉本美紅
4年次 上里悠太
5年次 須山裕貴
6年次 櫻井俊佑

以上5名

○ 日本大学古田奨学生

【大学院】 4年次 中村直矢

以上1名

○ ロバート・F・ケネディ奨学生

【大学院】 4年次 鈴木浩子

以上1名

○ 日本大学松戸歯学部大竹奨学金奨学生

【学部】 5年次 近藤啓太
6年次 北見颯基

以上2名

○ 日本大学松戸歯学部鈴木奨学金第1種奨学生

【大学院】

3年次 秦 万梨子
4年次 新井和樹 中本和花奈
疋田耀子 佐藤理沙
以上5名

【学部】

2年次 今橋花音 金安研造
川内美桜 鈴木諒
深澤真凜 山下大爾
3年次 五味篤哉 西川凌世
野淵優 打田莉織香
大塚悠真 藤島宏行
4年次 内山桃花 太田葵
白川優香 水無剛
磯貴大 吉岡奎南
5年次 浅野菜由 小堀真誉
武藤正仁 持田翼彩
吉田大起 柴田彩
6年次 尾羽澤美夕 佐藤歌菜
林直人 林優璃紗
古川可純 今村智恵
以上30名

日本大学 学生 FD CHAmmiT に参加しました

保存修復学講座 助教 庫川 幸利

令和8年9月13日（日）に「日本大学 学生 FD CHAmmiT」が開催され、本学部からは学生4名、教職員3名が参加いたしました。

今年度は「学部を越えて考える学びの課題とグッドプラクティスーよりよい学修環境の実現に向けてー」をテーマに、学部単独で解決できる課題と、全学的に取り組むべき課題について意見交換を行いました。小グループでのディスカッションでは学部ごとの制度やルールの違いが明確化し、非常に有意義な時間となりました。

今回の学生 FD CHAmmiT への参加を通して、学

生が日頃感じていることや考えていることを直接聞く機会の大切さを実感いたしました。また、学生と教職員がそれぞれの立場から意見を出し合い、より良い学修環境や大学教育のあり方について共に考えることが、教育の質の向上につながると改めて認識いたしました。今後も学生の声を大切にし、その意見を教育活動に生かしながら、学生にとってより充実した学修環境の実現に努めてまいりたいと思います。

このような貴重な学びの機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。



人事

異動

転出

芸術学部研究事務課へ（⁵/₁₁）
研究事務課 参事 田松 正樹

転入

芸術学部研究事務課から（⁵/₁₁）
図書館事務課 参事 中井 文彦

学部内異動

図書館事務課から（⁵/₁₁）
研究事務課 参事 平 真一

本採用

書記（⁷/₁） 学生課 大竹 航生

退職

技手（1級）（⁶/₃₀） 看護室 戸倉 直美

海外出張

韓国障害者歯科学会 2026 での研究発表のため（韓国）

教授 障害者歯科学 野本 たかと
専任講師 障害者歯科学 遠藤 真美
（⁴/₁₇～⁴/₂₀）

協定校で招待講演等を実施するため（インドネシア） 専任講師 教養学（英語）

バワール ウジャール
（⁴/₂₁～⁴/₂₉）

第 50 回米国口腔顔面痛学会学術大会で研究発表をするため（米国）

専任講師 有床義歯補綴学 大久保 昌和
（⁴/₂₉～⁵/₆）

オーストリア研究協会年次大会で研究発表をするため（オーストリア）

准教授 教養学（ドイツ語）渡邊 徳明
（⁵/₂₇～⁶/₃）

ヨーロッパ矯正歯科学会で研究発表等をするため（アイルランド）

教授 歯科矯正学 根岸 慎一
（⁶/₆～⁶/₁₀）

助教 歯科矯正学 黒江 星斗
専修医 歯科矯正学 和仁 俊夫
（⁶/₆～⁶/₁₂）

学術会議で招待講演等を実施するため（中国）

専任講師 教養学（英語）
バワール ウジャール
（⁸/₄～⁸/₁₂）

海外医療支援活動のため（モンゴル）

教授 口腔外科学 石井 良昌
（⁸/₁₇～⁸/₂₃）

国際障害者歯科学会 iADH で研究発表のため（アイルランド）

教授 障害者歯科学 野本 たかと
専任講師 障害者歯科学 遠藤 真美
助教 障害者歯科学 和井田 暢子
専修医 障害者歯科学 白田 翔平
（⁸/₁₈～⁸/₂₄）

専任講師 障害者歯科学 林 佐智代

専任講師 障害者歯科学 梅澤 幸司
（⁸/₁₈～⁸/₂₃）

日本大学ニューカッスルキャンパス視察のため（オーストラリア）

教授 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
丹羽 秀夫
（⁸/₂₄～⁸/₃₀）

研究成果発表のため（中国）

専任講師 教養学（英語）
バワール ウジャール
（⁸/₂₅～⁹/₂）

研究に必要な資料及び情報を収集するため（オーストリア）

准教授 教養学（ドイツ語）渡邊 徳明
（⁹/₁～⁹/₁₀）

1st ASGRS International Symposium on Salivary Gland Biology & Disease に出席のため（韓国） 教授 生理学 吉垣 純子
（⁹/₂～⁹/₄）

台湾障害者歯科学会で研究発表をするため（台湾） 教授 障害者歯科学 野本 たかと

専任講師 障害者歯科学 遠藤 真美
（⁹/₁₈～⁹/₂₀）

第 24 回アジア口腔顔面痛学会及び第 4 回インドネシア頭蓋下顎障害学会学術大会で研究発表をするため（インドネシア）

専任講師 有床義歯補綴学 大久保 昌和
（⁹/₂₄～⁹/₂₇）

European Prosthodontic Association (EPA) Congress で招待講演を実施するため（チェコ）

教授 顎口腔機能補綴学 小見山 道
（⁹/₃₀～¹⁰/₄）

着任挨拶



図書館事務課長
中井 文彦

令和 8 年 5 月 11 日付けの人事異動により、芸術学部から松戸歯学部図書館事務課へ配属となりました中井文彦（なかいふみひこ）と申します。松戸歯学部での勤務は約 5 年ぶりとなります。久しぶりに訪れたキャンパスには新校舎が建設されており、様変わりした新鮮な雰囲気に驚きました。

図書館事務業務は未経験の分野となりますので、まずは一から業務や現状を学び、一日も早く本学部に貢献できるような力を尽くす所存です。現在の大学を取り巻く環境や本学部が置かれている状況を見据えつつ、学生や教職員などの利用者の皆様に寄り添った居心地の良い図書館づくりに努めてまいります。

不慣れな点も多く、皆様にご不便をおかけすることもあるかと存じますが、今後も皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

多くの広報委員が参加するオープンキャンパス、夏休み体験学習会は今年も盛況です。高校生の皆さんの、初々しさと緊張が入り混じった表情はとてもまぶしく感じられます。また、保護者として付き添われる同窓生との再会うれしいものです。

体験学習会では、う蝕治療体験や付属病院内の見学なども行っており、歯科医療の現場に直接触れるプログラムとなっています。高校生の真剣な眼差しからは歯科医療への強い憧れがうかがえます。

一方で、日常的に生成 AI を使いこなす彼らが入学した際、今後の教育はどう変化していくのかと考えさせられます。AI は答えを導く便利なツールですが、歯科医療の基本はやはり自らの「頭」で考え、自らの「手」を動かして技術を修得することにあります。便利な時代だからこそ、自分の感覚や、実感を伴う学びが大切になるのではないのでしょうか。そのような志を持つ若者が、やがて頼もしい同窓生として私たちの輪に加わってくれる日を心待ちにしています。

口腔インプラント学講座 専任講師 井下田 繁子

講座紹介

歯内療法学講座



准教授 神尾 直人

当講座は昭和 55 年、本学部創設 9 年後に保存学第Ⅱ講座として発足し、初代教授・山崎宗与先生、第 2 代教授・松島潔先生が主宰されました。2005 年の講座再編に伴い現在の歯内療法学講座へと改称し、現在は神尾が講座責任者を務め、専任教員 6 名、専修医 6 名、大学院生 1 名で臨床・教育・研究に取り組んでいます。

付属病院保存科では平成 10 年から導入したマイクロスコープを現在 7 台に増設し、10 年前の 2 倍弱まで増加した根管治療紹介患者に対応するなど、地域医療に貢献しています。また、日本歯科専門医機構により整備された「歯科保存専門医」制度の運用開始から、歯の保存に対する社会的ニーズの高まりを実感しています。専

門医取得を視野に入れ、医局員一丸となって臨床・研究に励んでいます。

教育面では 3 年次から歯科保存学の一端を担い、歯科医師国家試験を見据えた講義・実習体制を整えています。臨床実習では高水準の歯内療法を間近に見るだけでなく、実際にマイクロスコープ下での治療を体験し、その難易度や奥深さを学ぶことで国家試験合格は単なる通過点であることを理解し、卒後の学修意欲が高まるような教育を目指しています。

歯科治療の中では言ってしまうと華の少ない仕事を、楽しくそして華々しく魅せることに医局員全員が尽力する、ある種マニアックな集団です。

化学講座

准教授 布施 恵



教養学（化学）講座は、昭和 46 年の本学部創設とともに始まり、半世紀を超える歴史を歩んできました。創設以来、理論化学、無機化学、有機化学、高分子化学、

分析化学などを基盤として、教養の化学から、歯科医療につながる化学教育を担ってきました。

歯科医療を実践するには、専門的な知識や技術だけでなく、教養で培われた広い視野と深い理解力が不可欠です。教養科目のなかでも、元素への理解を基礎として広がる化学の学びは、生体分子、歯や骨、歯科材料、医薬品など、臨床のさまざまな場面と深くつながり、歯科医学というサイエンスへと発展していきます。

1 年次の後期から始まる選択科目の「生命の文化誌」では、生命、歴史、文化などの身近なテーマを取り上げるとともに、その背景にある化学を歯科医療と関連づけながら進めています。

研究では、インプラント材料の表面改質および材料表面への生体分子の固定化など、歯科材料の機能化に取り組んでいます。